

青山大人(あおやまやまと) 県議会報告 かわら版26号



★平成 22 年 6 月 15 日発行 活動ブログも日々更新中！！
発行 青山大人事務所 土浦市乙戸801-2 電話 029-843-8520 FAX 029-828-7012
E-mail info@aoyamayamoto.net HP <http://www.aoyamayamoto.net/>

～青山大人(あおやま やまと)の略歴～1979年土浦市生まれ。現在31歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に27歳で県議会議員初当選。当時、全国最年少の都道府県議会議員。08年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画のロケ地を誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。現在、県議会土木委員会に所属。民主党茨城県連副幹事長、青年局長。土浦検察審査協会土浦支部長、土浦消防団第27分団員(H20・21年操法大会2番員選手)。

●子宮頸がん予防ワクチン検討開始

子宮頸がん予防ワクチンが開発され、日本では昨年12月から販売が開始されました。このワクチンの予防効果は50%から70%と言われております。国においても、予防接種部会において、子宮頸がんワクチンを含む予防接種事業全般についての議論がなされております。

県内の大子町、潮来市は女子中学生を対象に無料接種を実施することに決めました。無料接種は国や県に先駆けた措置であります。

茨城県としては、予防接種の補助については、国の動向を踏まえながら検討しつつ、まずは、いまだ20%台にある子宮がん検診の受診率の向上に努めていくとのことであります。

●街の活性化へ～映画のロケを誘致

平成20年に映画『クローズゼロII』(小栗旬、山田孝之ほか出演)の大型ロケを土浦に誘致し、青山も製作者側の一員として加わりました。

ご存知のようにモール505や土浦工業高校、駅前広場、真鍋のガソリンスタンドなど多くの場所で撮影が行われました。撮影の日には子どもたちもたくさん訪れ、街が賑わいました。

因みに、土浦での映画ロケ数は平成17～19年は年間1～2件ほど。映画『クローズゼロII』の撮影誘致後の平成20年は年間21件、平成21年は24件と大幅増となっております。

土浦は、「都内から近く、ロケに適した場所が多い、地元の方々が協力的」など制作側に好評であり、その後、モール505では、ドラマ「筆談ホステス」(北川景子ほか出演)、ドラマ「とめはねっ! - 鈴里高校書道部」(朝倉あきほか出演)、土浦一高旧館では、ドラマ「坂の上の雲」、ドラマ「白州次郎」など、土浦市内各地で撮影が行われております。

多くの撮影スタッフが訪れるため直接の経済効果もさることながら、街のイメージアップや宣伝にもつながります。これらを一過性ではなく今後、街の活性化にどう繋げていくかが課題であります。

●木田余地区急傾斜地指定へ前進

二中地区公民館前の道路向かいの裏山急傾斜地は、崩壊の危険のある場所です。長年に亘り、地元の方々から改善の要望がありました。議会で取り上げ、今年度、初めて調査のための予算がつきました。調査が終了し、地元の地権者の方々の同意を得た上で、整備事業へと進んでいきます。

ゲリラ豪雨が多い昨今、万が一崩壊によって被害が出てしまえば大変です。事業が円滑に進むよう、地元の方々との協力しながら今後も取り組んでいきます。

●宍塚大岩田線改良へ40年ぶり調査

昭和43年に都市計画され、道路拡幅予定でありました宍塚大岩田線。特に下高津2丁目の交差点から、旧国道6号のガード下の部分は、通学路としても使われており、朝夕の通勤通学の時間帯は非常に危険な箇所です。私自身も朝夕の時間帯を歩いてみたり、付近の皆様のご意見を何度も伺い、拡幅の必要性を感じております。

土木委員会をはじめ、県に対して再三質問し、昨年、40年ぶりに拡幅へ向けての調査の予算がつきました。ただし、旧国道6号のガードの問題や用地の問題など解決すべき課題はまだたくさんあります。

●編集後記

6月3日から県議会が始まっております。今回、常任委員会の質問において青山が一番力を入れたところは、茨城県が出資する法人のあり方です。昨今、国の事業分けに注目が集まっていますが、茨城県でも“仕分け”をしなければいけないような法人がいくつもあります。

例えば、事業収益が約18億円という出資法人について、よく見ると、収益のうち県の補助金が約10億円。つまり、補助金を差し引いた事業収益は半分以下のたった8億円なのです。さらに、事業内容が民間と競合していること、そして支出のうち人件費だけでも11億円。

もちろん全ての出資法人がムダとは言いきれませんが、思い切った改革も必要ではないでしょうか。今後も現状を分析し、指摘していかねばなりません。